

## 巻頭言

本プロジェクトでは、生物災害発生時の医療対応ならびに公衆衛生措置について調査研究を実施してきた。また、迅速な検知、患者の搬送、医薬品の提供、リスクコミュニケーション等において共通の課題を有するCBRN(生物、化学、核・放射線)災害対策を含めて包括的に検討するオールハザード・アプローチも取り入れている。以下、本年度の活動に関する総括を述べたい。

昨年、2回にわたり開催したCBRN災害対策セミナーでは、東日本大震災に関連するテーマを選定した。第1回セミナーでは、長崎県における原爆投下、チェルノブイリおよび福島県での原発事故の比較を通じて、核・放射線災害への医療対応について検討した。総合討論のセッションでは、研究者および初動対応者、政策担当者など100名近い参加者を交えて活発な議論が行われた。第2回セミナーは、CBRN災害対策に従事する関係者が、大規模災害発生後の被災者看護と公衆衛生措置の重要性について認識する機会となった。各講演の概要は、本報告書に掲載されている。

本年度で5回目を迎える日米メディカルバイオディフェンスシンポジウムは、2011年11月に米国のメリーランド州で開催された。本シンポジウムは、日米の代表者がバイオテロ等の脅威から国家を防護するための方策を協議する場として、2007年より毎年開催されている。例年、化学災害や食品安全などバイオディフェンス以外の重要なテーマについても取り上げてきたが、今回は放射線による健康影響についてのセッションを議題に加えた。なお、シンポジウムに関する報告書は別冊となっており、本報告書には収載されていない。

今年の3月には、ウイルス性出血熱をテーマとするバイオセキュリティワークショップを開催した。欧米では、毎年のように症例が報告されているので、日本で患者が発生することも「想定外の事態」ではない。ワークショップでは、出血熱ウイルスの種類や特徴について概観し、日本に流入した場合の医療的対応について考察した。さらに、英国との比較を通じて、日本のバイオディフェンスの現状を把握するとともに、今後の課題について検討した。セミナーおよびワークショップの内容については、本報告書の他に、プロジェクトが発行するニュースレターのなかでも紹介している(添付資料を参照)。

諸外国における取組や政策については、ブログ「CBRNニュース」を通じて、情報提供を行ってきた。本報告書においても、天野助教が米国に焦点をあてたレポートを2編まとめているので、そちらもご参照いただきたい。

最後に、今年度お世話になった関係者の方々にこの場を借りて重ねて御礼を申し上げ、巻頭言とさせていただきます。

(平成24年3月)

## 竹内 勤

平成23年度文部科学省委託事業 安全・安心科学技術プロジェクト  
「バイオセキュリティの向上に資する公衆衛生措置に関する調査研究」

研究統括  
長崎大学 熱帯医学研究所 所長・教授  
同国際連携研究戦略本部 副本部長

